

「若年性認知症」って知っていますか？

認知症は、脳の細胞の働きが悪くなったために起こる様々な障害により、生活に支障が出る病気です。決して特別な病気ではなく、誰もがなる可能性があります。

認知症は高齢になってからの病気と思っているかたが多いと思いますが、最近では、40歳～50歳代でも認知症と診断される、いわゆる「若年性認知症」のかたも増えています。

現在は、認知症も早期発見、早期治療を受けることで進行を遅らせたり症状を改善したりすることができるようになってきましたが、残念ながら若年性認知症は、発見が遅れがちで仕事や生活に大きな支障が出てしまい、かなりの重度になってから診断される場合がほとんどです。

認知症の早期発見と早期治療のためには、本人や身近なかたの「気づき」がとても大切です。

若年性認知症 チェックリスト

元来持っている性格的なこともあります。2～3個以上あてはまるようなら要注意です。

1	会ったことのある人の名前や商談の日時を忘れるだけでなく、会ったことも約束自体も忘れてしまっている。	
2	携帯やテレビのリモコンなど、使い慣れたものの使い方が分からなくなることがある。	
3	日常の会話が、「あれ」「それ」が多くなり、簡単な言葉が出てこなくなる。	
4	通勤経路や、行き慣れた出張先などでも道に迷うことが多くなった。	
5	今日が何月何日かが思い出せないことが多くなり、夜眠れなかったり、昼間眠いことが多く生活が乱れてくる。	
6	暑いのに厚物の洋服を着たり、寒いのに薄着をしてしまったり気温に応じた服装ができない。	
7	打合せや会議で、話の進行についていけない。	
8	探し物が多くなった。例えば冷蔵庫で探し物の鍵が見つかるなど普通では考えられないところに置き忘れることがある。	
9	その場の雰囲気に関わらない感情反応をしてしまい、周囲を驚かせたりしてしまうことが多くなる。	
10	疑い深くなった、イライラするようになった、ふさがちになった、無関心になった、心配性になったなど以前と比べて性格が変わったと感じる。	
11	仕事や家事、趣味にも意欲がなく、ぼーっと過ごすことが多くなった。	

県福祉部地域包括ケア課 発行「仕事上のトラブルも、もしかしたら“若年性認知症”が原因かもしれません」リーフレットから

「ちょっとへんだな」と感じたら地域包括支援センターへ相談を。

職場やお住まいの地域に認知症ではないかと心配されるかたがいる場合は、地域包括支援センターにご相談ください。

秩父圏域では「認知症初期集中支援チーム」が設置され、さまざまなサポート体制がとられています。

問合せ 健康福祉課 地域包括支援センター ☎63-1122